

基調報告

認定 NPO ファミリーハウスは 1991 年創立以来 23 年、NPO 法人格取得以来 15 年、認定NPO取得から 3 年半が経過いたしました。この間活動を支えてくださった会員の皆様をはじめ、多くの支援者のご理解、ご協力に心より御礼申し上げます。

ファミリーハウスは 2013 年度、11 施設 56 室を運営し、1,119 家族延べ 11,575 人の方々にご利用いただきました。ハウスを支えるボランティア、スタッフの皆様のご努力に感謝申し上げます。

今年度は、利用者のニーズに応えるハウスづくりのため、ハウス運営者の専門性確立にむけてのスタートの年になりました。

まず、ハウススタッフに求められる要件を言語化し、小冊子『病気の子どもと家族のための滞在施設を運営するために大切にしていること(ハウスゆいまーる)』にまとめました。さらに 2013 年 11 月に JHHH ネットワーク会議で、全国の滞在施設運営者の仲間と共有しました。利用者のニーズに応えることのできるスタッフ育成のための大きな第一歩となりました。

次に、ファミリーハウス・フォーラムの実施です。医療従事者と医療福祉分野の学生を対象に『病気の子どもと家族のトータルケアを考える～「その人らしく生きる」ということ～』を開催しました。医療従事者とともにパネルディスカッションを行い、ファミリーハウスがトータルケアの一端をどう担ってきたのか、これからどうあるべきなのかをともに考えることができました。

また、今年度も非常に多くのボランティアの皆さんにハウス運営にご協力をいただきました。定期的にハウスを支えていただくボランティアは登録が昨年より 41 人増の約 302 名ですが、そのほかに 32 回、ハウスのお掃除、手仕事などで企業ボランティアの受け入れを行いました。参加人数は 309 人にのぼりました。

その他に、パナソニック株式会社の協力を得て、ファミリーハウスの目指す「理想の家」のコンセプトをまとめ、イラスト化するプロボノのプロジェクトを行いました。団体内部だけでは到底実現できないプロジェクトを「プロボノ」という形で実現できたことは、今後の活動の新たな可能性を実感できました。

また、2013 年 11 月には、オーナーのご都合で、みどりのおうちがクローズしましたが、2014 年 4 月にはかちどき橋のおうち(2 室)がオープンするなど、支援者の方々、ボランティアの方々のお力で、利用されるかたにご迷惑かけることなく運営をできましたことは何よりの喜びです。

この 1 年間活動を支えてくださいました皆様方に御礼申し上げますとともに、今後ともこの活動にご支援ご協力賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

理事長 江口 八千代

2013 年度事業報告

1. ハウス運営事業

(1) ハウス運営事業

2014 年 3 月末の施設数は、10 施設 55 部屋。利用実績は、1,119 家族(11,575 人)延べ 8,139 日。本法人活動開始以来の利用実績累計は、14,469 家族、延べ 132,269 日。

〔1〕『みどりのおうち』(新宿区)クローズ

新宿区にある「みどりのおうち(1 室)」は 2008 年 12 月の開設以来、慶應義塾大学病院、東京女子医科大学病院で治療するご家族を中心にご利用いただいたが、ハウスオーナーの都合により、

2013 年 11 月末日をもって返却した。

〔2〕『かちどき橋のおうち』(中央区)開設準備

2014 年 3 月、都営大江戸線勝どき駅から徒歩 3 分の 14 階建てマンションの 2 室をイヌイ倉庫株式会社より提供いただきハウス開設に向け準備をすすめた。国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院が徒歩圏内で、50 平米の 1LDK は家族揃ってゆったりと過ごせるハウスとなる。設備・備品の一部を UPS 基金、運営費の一部をエドワーズライフサイエンス基金の助成を受け、隣接する「うさぎさんのおうち」ボランティアチームをはじめ、各ハウス、企業ボランティア、延べ 100 名の協力を得て、2014 年 4 月 12 日にオープンした。

(2) 安全衛生について

〔1〕クリーニング業者の協力を得て、各ハウスの寝具リネンのクリーニングを行った。

〔2〕昨年度に引き続き、助成財団の支援を得て、リース寝具を提供することが出来た。

〔3〕毎月 1 回、共同で使用する洗濯機槽及びエアコンフィルターを洗浄し、衛生的な環境を保つよう努めた。

〔4〕延べ 32 回ハウスの大掃除を行った。日常の清掃は利用者とオーナーやボランティアが行っているが、企業の社会貢献活動の一環として参加する社員もあり、今年度大掃除参加ボランティアの延べ人数は合計 309 名となった。

〔5〕普段の活動で手の届かない箇所(洗濯機槽など)について、専門業者によるハウスクリーニングを実施した。

(3) ハウス設備の充実

〔1〕個人、企業、団体からの温かいご支援により新規ハウス開設を実現し、また既存ハウスの居住性を高めることができた。

●UPS 基金からの寄付により、災害備蓄品、除菌機能のついたエアコン・洗濯機、車椅子などハウスの安心安全の向上を主たる目的に、ハウス備品を整備した。

●新ハウス「かちどき橋のおうち」開設準備のため、UPS 基金、エドワーズライフサイエンス基金の支援を受け、設備や備品を整えた。

〔2〕個人や企業からのご支援により、絵本・DVDソフト・おもちゃなど多くの寄贈をお受けした。

〔3〕ホームページのウィッシュリストを見て、多数の生活用品や食品が届いた。ボランティアの協力を得て各ハウスに配備し、闘病中のご家族の経済的負担軽減に努めた。

〔4〕ボランティアが中心となり、クリスマスや母の日など季節の贈り物を手作りで準備した。企業、個人のボランティアの協力によりこのプロジェクトを行った。その結果、ハウスを利用するご家族や入院中の子どもたちに多くのプレゼントを届けることができた。

(4) ボランティア関係報告

〔1〕事務局及びハウスにおいて延べ 21 回のボランティア説明会を開催した。1 年間の新規ボランティア登録者は 54 名。ボランティア説明会では、ファミリーハウスへの理解を深めること、ボランティア希望者と運営者側のニーズがマッチングする事の二点に重点を置いている。2014 年 3 月現在、登録ボランティアは 302 名。

〔2〕各ハウスでは、ボランティアチームを編成し、ボランティアミーティングやハウスキーピングを定期的に行い、利用者にとって安心安全を支えるハウスづくりに努めた。

〔3〕チャリティコンサート、ファミリーハウス・フォーラムなど多くのボランティアに支えられてイベント開催することができた。

〔4〕アフラックペアレンツハウス亀戸にあるボランティアルームにて次の活動が行われた。

○ 絵本のブッカーかけ作業

○ むいぐるみ、おもちゃ除菌

○ 使い捨て布、雑巾、ゴミパック・エコバッグ、ビーズのキーホルダーづくりなど手仕事

○ ハウスの座布団カバー、ベッドカバー、バスマットなどの手仕事

- クリスマスや母の日など季節の贈り物づくり
- 寄付物品のラッピング(母の日のプレゼント・クリスマスプレゼントなど)
- イベント準備(チャリティコンサートお土産・展示物・資料など)
- 発送作業
- うさぎさんのおうち模型作り
- その他(バザー品の作成など)

〔5〕企業が全社的に行っているボランティア活動に、ファミリーハウスがプログラムを提供し、ハウスキーピング、エコバッグづくり、絵本のブッカーかけ、クリスマスプレゼントづくり、園芸(野菜、花壇づくり)、企業に出張してのビーズのキーホルダーづくりなど、ファミリーハウスを支える活動を行った。その際に、スタッフやボランティアと活動理解につながる質の良い交流をすることができた。

〔6〕企業やチャリティコンサート、イベント等で、スタッフボランティアでファミリーハウスのブースを設け、うさぎさんのおうち模型展示や資料配布、ファミリーハウス活動のデモンストレーションを行った。

〔7〕各ハウスでは、定期的にボランティアミーティングを開催し、多いハウスでは月に1度開催した。ファミリーハウスの現状、課題を共有し、今後ハウスのために新しく行っていきたいことなどが話し合われた。また、「ファミリーハウスの現状や利用者を知る」というテーマでボランティア交流会を開催。「CLS(チャイルドライフスペシャリスト)の病院での役割とは」というテーマでの講演の及び、ファミリーハウス現状報告を行った。

〔8〕各ハウスに設置されているパソコンのメンテナンスを月1回、ボランティア協力により行った。ホームページの情報もボランティアの協力により、月1回、定期的に更新を行った。PCボランティアメンバーは合計20名。

〔9〕経理処理のチェック、労務管理、会員管理、利用率の算出、お礼状の発送、ファミリーハウス通信の発行発送、アニュアルレポートの編集、各種デザイン関係の支援など、ボランティアの協力を得て行うことができた。

(5) 研修及びハウススタッフミーティングの開催

〔1〕患者家族滞在施設運営者の専門職確立のための研究・研修事業

武田薬品工業株式会社の助成を受け、2010年10月より3ヶ年計画でハウススタッフに求められる要件を言語化するプロジェクトを進めてきた。その成果として2013年11月、18項目から構成されるハウススタッフのコンピテンシー(マインド・スキル・知識)を、小冊子『病気の子どもと家族のための滞在施設を運営するために大切にしていること(ハウスゆいまーる)』にまとめた。

小冊子「ハウスゆいまーる」については、2013年JHHHネットワークで全国のハウス運営団体に報告。今後は、この内容にもとづき、新スタッフ等とハウス運営にあたって大切なことを共有し、より多くの利用者ニーズに対応できるハウスづくりを目指していく。

〔2〕消防訓練と防火防災管理者育成

2014年2月23日にアフラックペアレンツハウス独自シナリオでの消防訓練を行った。城東消防署立ち会いのもとスタッフ12名が参加し、一人勤務を行っている時の火災発生を想定した実践的な訓練を行った。また、防火防災に関する知識と基本技能習得を目的として、消防法に基づく防火防災管理者認定講習の受講を推進した。2014年3月末までに8名が受講を完了し、防火防災管理者に認定された。

〔3〕毎月1回、ハウスマネージャ合同のミーティング及びリーダーミーティングを開催した。

〔4〕各ハウスとも定期的にボランティアメンバーが集まり、ミーティングを行った。

〔5〕事務局において、毎週金曜日にプロジェクトの進捗ミーティングを行った。

(6) ハウスへの定期的な物品運搬

企業又は個人の方からご寄付をいただいた品物(生活用品、食料品等)を主に3ヶ月に1回実施の布団交換にあわせてボランティアのご協力を得ながら各ハウスに届けた。

2. 広報

(1) ファミリーハウス通信の発行

2013 年度も毎号ごとに編集会議を行い、年 4 回の発行を行った。また、昨年度に引き続きプロボノのボランティア協力を得て、質を意識した制作を行った。より読者に読んでいただける工夫として、表紙が見えるように紙封筒から透明ビニール封筒に変更した。誌面を通じ、会員に対して活動への親しみやすさを伝えるとともに、寄付・ボランティア活動への参加醸成を行った。また、配布先の正会員、後援会員、協力企業、関係団体、医療看護福祉系大学、専門職団体、医療機関、保健所等へ配布し、4 回合計で 16,338 部発送した。(前年は約 15,435 部)通信の編集・発送作業はボランティアの協力によって行われている。

(2) ファミリーハウス・フォーラム

2013 年 7 月 6 日、東京国際フォーラムにて、ファミリーハウス・フォーラム『病気の子どもと家族のトータルケアを考える～「その人らしく生きる」ということ～』を開催し、医療・福祉専門職や学生を中心に 206 名が参加。上智大学名誉教授アルフォンス・デーケン先生からの基調講演、当会からのイギリス・ドイツ視察報告、医師・看護師・ソーシャルワーカーの先生とのパネルディスカッションを通じて、ファミリーハウスがトータルケアとしてのハウスのために果たしてきた役割と今後の可能性・課題を検討した。(公益財団法人 JKA 平成 25 年度オートレース補助事業)

(3) 見学研修受け入れ

ハウス利用希望者をはじめ、支援・協力希望の企業、団体、個人等多数の見学受け入れを行った。

(4) うさぎさんのおうち模型作り

利用者のニーズをわかりやすく伝え、ハウスを身近に感じてもらうためのツールとして、最新のハウス(うさぎさんのおうち)の模型作りを行った。2013 年 12 月から 2014 年 2 月にかけて、全 6 回(50 時間)、延べ 52 名のボランティアにご協力いただき、ハウスの模型が完成。「子供未来とうきょうメッセ 2014」「東京マラソン EXPO2014」のブースにて展示し、ハウスならではの工夫を知っていただくために活用した。

(5) クリック募金

株式会社エイブルよりクリック募金によるご支援をいただいた。クリック数は、一日 4,900 件程度。一年間の合計は 1,809,747 円となった。

(6) マスコミ等からの取材

新聞、雑誌、企業などの取材申し入れがあった。取材、掲載等は 8 件。

(7) ホームページ

2014 年 3 月末現在アクセス数は 261,493 件、一年で 23,553 件アクセスされた。また、2013 年度も、ホームページ更新ボランティアの協力により、月 1 回の定期的な更新を実施することができた。また、グーグル社およびヤフー社が社会貢献として、自社の検索サイトの広告欄に非営利団体のページへのリンクを無料掲載するサービスに、ファミリーハウスも参加した。2013 年度は、ファミリーハウスへのリンクが 35,527 回表示された。ただし、そのリンクをクリックした回数は 54 回であり、新しいツールの効果的な活用法の模索が必要である。

(8) イベント(詳細は「今月のファミリーハウス」や会報「ファミリーハウス通信」にて報告)

〔1〕チャリティコンサートにてブース出展

〔2〕ぶたねこチャリティコンサート

- 〔3〕ジャズナイト@魚籃寺(おさかなの家コンサート)
- 〔4〕ファミリーハウス「理想の家イメージ化プロジェクト」
- 〔5〕第 14 回 JHHH ネットワーク会議
- 〔6〕「子供未来とうきょうメッセ 2014」ブース出展
- 〔7〕東京マラソン 2014 参加

3. 援助及び支援活動

(1) 相談事業

- 〔1〕受付・電話相談の総数は、4,967 件。 電話相談問合せは、328 件。
- 〔2〕訪問による相談件数は、49 件。
- 〔3〕利用者を受け入れる際に、必要に応じ病院との連携を行った。また関連団体との連携、協力を図った。

(2) 援助支援活動

- 〔1〕利用料支払い困難者に対し、公益財団法人森村豊明会より利用者助成積み立て基金を得て、減免を行った。
- 〔2〕「研修費」の一部(医療・福祉系学生への滞在施設啓発事業)について、公益財団法人 JKA「オートレース公益資金」による補助金を受けて実施した。
- 〔3〕「ハウス運営・相談事業費」および「広報活動費」の一部について、メトロニック財団による補助金を受けて運営した。

4. その他

(1) 利用者データベース構築

利用率計算を効率化するため、エクセルからアクセスでのシステム変更を、IT ボランティアの協力を得て進めた。まずは、アフラックペアレンツハウスでの運用を目指して、日常の「日報」や「宿泊計算書」の作成業務と連動して利用率計算ができるようにシステムを構築した。2014 年 4 月以降に仮運用を始め、完成を目指す。